

「オリンピックで金メダルを取る」

本日午前、リオオリンピック柔道73kg級金メダリストの大野将平選手のお母さんが来校され、将平選手の柔道着を寄付して下さいました。

将平選手は本校を平成16年3月に本校を卒業し、現在26才です。実家は上東にありこの正月も帰郷されていたそうです。

校長室で1時間くらいお話をしましたが、将平選手の小学校時代の話など大変貴重で素晴らしいお話を伺いました。



皆さんも着てみて下さい。



将平君は、2才上の兄も柔道をされていたこともあって、アリーナで練習している松美柔道教室で小学1年生から柔道を始めました。

小学生の頃は体格は小さく（現在170cm）、柔道も全然強くはありませんでした。大会でもよい成績は上げたことがないとお母さんは言われていました。

将平君の兄は小学時代から大変強く、ス

4年生の1/2成人式で語った夢を実現した将平君カウトされて中学校から東京の有名な柔道私塾「講道学舎」に行っていたことから、将平君も自分も小学校を卒業したら東京に行くと言い出しました。

しかし、ご両親も賛成はせず、体重がもう10kg大きくなったら試験を受けてもいいと話されました。するとそれから1日4食にするなど必死になって体重を増やし、入学試験を受けました。合格はしましたが、入学時のランクは8人中の7番手でした。

しかし、その後は必死になって練習を重ね、中学3年生の時には、主将をするまでになり、高2のインターハイで初めて優勝しています。その後の活躍はご存じの通りです。

お母さん曰く、「将平は本当にここまでになるとは思いもしなかった、東京にも行ってほしくなかったが、最終的には本人の意思に任せてきた。今でも家に帰ってくると、昔と同じような我がままな子供」だそうです。

お母さんは、現在、上東で習字の先生をされており、本校の子供もたくさん通っています。書道を通して、子どもの成長を見守っておられる教育者の一人です。

良城小の教員として、卒業生の将平君のこと、何よりも、小学校では目立たなくてもその後どんどん成長し、世界チャンピオンとなったことを誰よりも詳しく知ってもらい、たかが小学生で将来を悲観したり、夢をあきらめたりしない良城小の子ども育てるために、先生方に直接お話していただきたいとお願いし了承していただきました。

来週以降、機会を持ちたいと思いますのでお楽しみ。

先日、NHK山口のインタビューで「地元で柔道教室をしたい」と語っていた将平君。

2020に向けて、将平君を出身校職員として大いに応援していきましょう。